

【 五色の短冊 と 五輪の色 】

七夕は五節句の一つで、現在は新暦の7月7日に行われることが多いですが、元々は旧暦の7月7日（2021年は8月14日）に行われていました。笹に歌や願いを書いた「五色の短冊」を飾り、習い事の上達を願う星の祭りとして各地で行われています。「五色の短冊」の5色は、青（緑）・赤・黄・白・黒（紫）で願い事の内容で用いる短冊の色も違うそうです。万物は「陰・陽」の二気、「木・火・土・金・水」の五行で成り立ち、これら陰陽五行の要素で世の中は回っているという中国の古代思想「陰陽五行説」に由来しています。五色は魔除けの意味もあり、短冊の色だけでなく、鯉のぼりの吹き流し、相撲の土俵の上の屋根に下がっている房などに使われています。



五色の短冊～♪

オリンピックの五輪の色も、5色です。左から青・黄・黒・緑・赤の輪を重ねてWの形に連結していて、ヨーロッパ、南北アメリカ、アフリカ、アジア、オセアニアの世界の五大大陸を表しています。また、デザインをした近代オリンピックの父クーベルタンは、五輪の色と地の色の圓を合わせた6色があれば、世界中の国旗を描くことができるとして、世界の人が手をつなぐことが大切だという意味を込めました。

★色や色の組み合わせには、様々な意味があります。生活の中には、他にどんな意味が込められたものがあるか探してみてください。

【 笹 と オリーブ 】

笹や竹は天の神様が依りつくところ（依り代）とされているので、願いを書いた短冊を笹につるし、天に向かって掲げます。



笹の葉さらさら～♪

古代オリンピックでは優勝者には金メダルではなく、オリーブの葉で作られた冠が送られました。オリーブの木はギリシャ神話の英雄ヘラクレスが常春の地から持ち帰った神聖なもので、水が少ない土地でも育つことから、不死の象徴となり、勝利者にふさわしいと考えられていたそうです。月桂樹の葉の冠は、古代ギリシャでは、優れた詩人などに贈られました

★蓮や百合、菊や葡萄など、神聖な植物とされるものを探してみましょう。



新宿門横の掲示板にあります。

※和菓子は、季節を取り入れたものが多いです。左は朝顔の花、右は七夕にちなんで笹の葉に雫がのっている様子をイメージしています。

